

短期大学生調査を活用した学習成果の可視化手法の検討

Investigation of visualizing student's learning outcomes applying by the "Tandaiseichosa"

○山崎 慎一（桜美林大学） 遠藤 修司（桜の聖母短期大学）・堺 完（大分大学）・宮里 翔大（桜美林大学・院）・黄 海玉（短期大学基準協会）

結 果	表：短期大学生調査における学習成果に関する項目の2014・2018年度間の比較						
	年度 YEAR	数 N	平均（標準偏差） mean (S.D.)	平均値の差 2018-2014	効果量 d	信頼区間(95%) 95% CI	有意水準 p
一般的な教養	2014	286	4.09 (0.53)	-0.06	0.10	[-0.40, 0.16]	
	2018	252	4.03 (0.67)				
専門分野や学科の知識	2014	286	4.32 (0.61)	-0.05	0.08	[-0.56, 0.16]	
	2018	252	4.27 (0.66)				
論理的に考える力	2014	286	3.74 (0.60)	0.14	0.20	[-0.24, -0.21]	*
	2018	251	3.88 (0.73)				
異なる文化や考えを持つ人々を理解する力	2014	286	4.00 (0.69)	-0.01	0.01	[-0.11, 0.13]	
	2018	252	3.99 (0.78)				
リーダーシップ	2014	285	3.45 (0.71)	0.09	0.12	[-0.22, 0.36]	
	2018	252	3.54 (0.81)				
他の人と協力する力	2014	286	4.09 (0.72)	0.06	0.08	[-0.17, 0.06]	
	2018	252	4.15 (0.70)				
現代社会の抱える様々な問題を理解する力	2014	286	3.89 (0.62)	0.01	0.01	[-0.12, 0.10]	
	2018	251	3.90 (0.71)				
文章（レポートなど）を書く力	2014	286	3.88 (0.68)	0.08	0.11	[-0.19, 0.39]	
	2018	251	3.96 (0.68)				
本や資料などを読み解く力	2014	286	3.58 (0.66)	0.09	0.13	[-0.21, 0.31]	
	2018	252	3.67 (0.77)				
数値やデータを理解する力	2014	286	3.33 (0.61)	0.15	0.22	[-0.26, 0.03]	*
	2018	252	3.48 (0.77)				
外国語を使う力	2014	286	3.07 (0.81)	0.12	0.14	[-0.27, 0.02]	
	2018	252	3.20 (0.96)				
コミュニケーション能力	2014	286	3.94 (0.80)	0.04	0.05	[-0.17, 0.09]	
	2018	252	3.98 (0.77)				
プレゼンテーションをする力	2014	286	3.78 (0.78)	-0.07	0.09	[-0.06, 0.20]	
	2018	251	3.71 (0.82)				
PC など情報機器を使う力	2014	286	3.93 (0.72)	0.01	0.01	[-0.14, 0.11]	
	2018	252	3.94 (0.79)				
自学自習の能力	2014	286	3.31 (0.80)	0.02	0.02	[-0.15, 0.12]	
	2018	252	3.33 (0.85)				
挑戦する力	2014	286	3.81 (0.71)	0.07	0.09	[-0.19, 0.05]	
	2018	252	3.88 (0.80)				
ねばり強さ	2014	286	3.64 (0.75)	0.06	0.08	[-0.18, 0.07]	
	2018	252	3.70 (0.77)				
計画性・スケジュール管理能力	2014	286	3.90 (0.74)	-0.05	0.07	[-0.07, 0.17]	
	2018	251	3.85 (0.75)				
キャリア意識	2014	286	3.73 (0.65)	0.14	0.20	[-0.25, 0.02]	*
	2018	252	3.87 (0.73)				
自己の理解	2014	286	3.88 (0.66)	0.10	0.13	[-0.21, 0.02]	
	2018	252	3.98 (0.76)				
地域や社会に貢献する意識	2014	286	3.96 (0.69)	0.01	0.01	[-0.13, 0.11]	
	2018	252	3.97 (0.80)				

平均の算出：1=大きく減った 2=減った 3=変わってない 4=増えた 5=大きく増えた

*p=<0.05

平均値の差が比較的大きかった「一般的な教養」については、「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」の増加に伴い関連履修科目が減少したことによる。「プレゼンテーションをする力」については、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの実施は減り、かわりにワールドカフェ形式や小集団の発表が増えたため、プレゼンテーションをしていると学生が認識していないのではないかというコメントもあった。

◆ 研究者による分析は、巨視的な動向把握は可能であるが、個別の短期大学の改善に資するのは難しい

◆ 各短期大学の全体像や教育プログラムについて把握している当事者でなければ、教育改善の状況を可視化は困難

◆ その一方で、短期大学の当事者だけでは、自機関の取り組みが日常的になされているため変化に気付くのが難しく、外部の研究者から情報を提示されることによって、教育効果や意義に気付くことも多いというコメントもあった。また、学内事情や実態が分からないがゆえに、良い結果も悪い結果も含め、バイアスなくデータを提示できる利点もある。

考 察

▶学習成果の可視化において、「第三者（研究者）による考察×短期大学の当事者による考察」の有効性を示唆

今後の課題

▶具体的にどの授業が効いているのか識別できない

▶短大の全体像を把握しつつ、データを見れる人材が少ない